

インシユアテックイノベーション

15

シヨップ運営からエコシステム構築まで

アイリックコーポレーション

エージェントソリューション部長 畔柳 主税

企業視点のDXとして契約引受時の健康診断書、保険金支払時の診療明細書のA-I-O-C-Rサービスの提供が始まった。その先の世界は顧客起点のDXであり情報銀行・スマートコントラクトが重要な鍵となる。企業向けのA-I-O-C-Rのエコシステム化が縁のある方を引き寄せて企業視点と個人起点の懸け橋になる事業にも進展していく。

「顧客が治療を受けたらボタンスで保険の請求がきたらいいね」と生保給付金エコシステムの研究の姿もメンバーで議論されている。言うのは簡単だが実現までの道のりは遠い。三つのステップが必要だ。第一に、顧客が保険証券を保管できて治療後に診療データを取り込める(情報銀行・PDSへパーソナルデータストア)。第二に保険金給付の可能性があるか判断する(AI)。第三に、そのデータを保険会社のシステムに連携する(API)。第二・第三は、企業視点のDXで生保エコシステムとして実現を

目指している。一番、ハードルが高いのが最初の情報銀行・PDSだ。個人データを情報銀行で安全に管理してもらいながら顧客同意のうえ企業に提供して、銀行預金の利息のようにメリットを受けられるもの。大手プラットフォームのデータ流用、新型コロナウイルスの給付金の手間・遅れなどの問題から社会のニーズは高まっている。エストニア、イギリスなど先進的な国で進みつつあるものの、日本では大手企業による実証実験が始まっている段階だ。弊社としては情報銀行のうち、保険分野での貢献ができないか模索してい

る段階に過ぎない。

そこで個人起点での体験に着手した。ところが私はヘルスケアで健康増進はできても病気になるので保険金請求の体験がない。まずはお金から推測するしかない。私は10年以上マネーフォワード(以下MF)のMFクラウドのユーザーだ。8銀行・20口座(ローン

習日には気付いて処置を打てた。会計システムにも取り込んで自動仕分けの残高を見ながらメール

個人起点のDXへスマートコントラクトが鍵

含む)、2証券、9クレジットカード、7ポイント管理している。入金金明細が翌日には飛んでくる。先日Apple Storeの不正利用に

の風も感じた。「弊社もいよいよ何かを」と思っていたところ、上司の建部から長年温めていた人脈を通じた話が舞い込んだ。クロス



3社間の打ち合わせの様子(左上から時計回りに、SC I 三村氏、IRRC 諸吉氏、IRRC 建部氏、XDI 藤井氏)

るのか、ヘルスコーチ・健康増進アプリで生活習慣を改善するのとか等のアドバイスがもらえるなどだ。幸か不幸か保険も医療もAPIが進まないのが弊社には保険証券・健康診断書・診療明細書のA-I-O-C-R活用でデータ化に取り組み、関係先から注目されている。保険会社に加えヘルステック企業・薬局・BPO会社からもアライアンスの話が来ている。

そんな中、請求できる保険に気付けるアプリ「保険簿」がinsurtech企業として初めて「FIN/SUM 2021」のNikei Awardを受賞。井藤社長の熱い思いを聞いていただけに業界としてうれしく思い、また時代

には驚いた。保険も8社との連携が始まっている。MFの金融情報の延長線上に保険とヘルスデー

デジタル・イノベーション(XDI)の藤井社長からのスマートコントラクト事業の話だ。保険加入情報を管理(生損保)するサービスを提供しAIを活用した保険給付金の自動受取りを実現、業界プラットフォーム構築を目指すものだ。同僚の諸吉が運営会社スマートコントラクト・インシアティブ(SCI)の三村社長と実現に向けての事業プラン・弊社の技術活用・マーケティング戦略などを話した。藤井社長の事業構想の高さと三村社長の熱い思いにも共感し、前向きな検討が進み5月から本格スタートした。

並行して、生保給付金エコシステムに続いて、損保損害サービスエコシステム構想もNTTイフ・アシストと検討し、6月3日にセミナーを開催する。「災害時に被災者の方に早く保険金を支払いたい」など社会的意義のある業界ニーズにつながりそうだ。公共分野でのA-I-O-C-R活用でも罹災証明の発行申請業務のデジタル化なども検討

を開始した。これらの動きにスマートコントラクトもつながるのではないかと夢が膨らんでいる。DXも企業視点のサービスと顧客起点の情報提供が融合することで進展していくのが理想的かもしれない。

日本版情報銀行・スマートコントラクトの進展は行政・各業界のリーディングカンパニー中心に進むと思われるが、弊社もその一端を担うことで保険業界の発展に貢献できればと思う。今回で弊社のインシユアテックイノベーションは終わりと



次回、保険業界でインシユアテックに挑戦する方々へのエールで連載を締めくくりたい。

【畔柳主税(あぜやなぎ・ちから)氏のプロフィール】静岡県富士市生まれ・東工大卒。石油会社のIT部門・企業代理店を経て、2013年から、保険業界向けのITソリューションの企画・営業に携わる。持ち味は、企業コラボ。